

令和3年度 学校評価最終報告（今年度の取組と次年度に向けて）

重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ・新学習指導要領に基づいた教育課程の実践の中で生活単元学習を中心とした年間指導計画の見直しを行う。 ・最新の情報に基づいた感染症対策と、災害時の緊急体制の見直しと徹底を図る。 ・職場環境を整理し計画的に業務を進める。一人一人の働き方を認め、支え合う職場づくりに努める。 		
項目	重点目標	具体的方策	取組の成果と次年度に向けて
授業づくり	<p>新学習指導要領に基づき、新しい教育課程を実践し評価する。</p>	<p>・学年主任者会の場で、優れた実践を取り上げ、共通理解を図る。それぞれの学年のよいところを学び合うことによって、部全体の底上げを図る。 (小学部)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽や体育、生活単元学習などの学年全体で活動する授業計画に関しては、いずれの学年でも学年会の場で三観点による目標設定が年間を通して行われた。 ・学年主任者会では、コロナ対応をはじめ、次年度の行事や1棟の改修工事に伴う教室配置、45分授業への対応など、喫緊の課題についての検討に時間を要し、授業づくりに関する情報交換の機会を設定することが難しかった。「標準時間数に合わせた時間割」の検討を軸に令和5年度の教育課程について、検討を重ねていきたい。 ・今後は特に見取りの難しい「思考・判断・表現」の観点について、部内で理解を深め、よりよい実践を共有していきたい。
	<p>12年間の学習の系統性を検証し、生活単元学習を中心に年間指導計画を見直す。</p>	<p>・生徒の発達段階や特性を把握し、それに応じた授業内容の充実を図ったり、教材・教具や環境設定などの工夫を行ったりする。 (中学部)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・三観点に基づく目標設定、授業実践、評価を行いながら授業改善に取り組んだ。多くの授業において、ICTを活用した教材・補助教材等の使用や環境設定の工夫によって一定の学習効果をあげることができた。生徒用タブレットの使用も始めたが、今後もアプリの活用など工夫して取り組んでいく。 ・部会で各学年の自立活動の様子を動画視聴しながら、ねらいや活動内容等の情報を共有することができた。今後も生徒の実態や取組の引継ぎをしつつ、各教科等との関連についても考えていく機会を設定したい。 ・作業学習における各学年のねらいについて改めて部会で共有し、新種目については今年度中に決定し、次年度試行・実施することにした。生徒の実態を踏まえて作業学習の進め方や補助具の工夫等をし、ねらいの実現に向けて取り組みたい。
	<p>常に専門性の向上に努め、発達段階や年齢、特性に応じた授業を展開する。</p>	<p>・昨日より今日、もっといい授業のために準備や検討を密に行う。</p> <p>・自立活動、総合的な探究の時間、生活単元学習、作業学習の年間指導計画、指導体制、指導内容の改善を図る。 (高等部)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍や45分授業への対応、教育課程を中心とした部の課題について、最適解を皆で模索しつつ意思決定を行った。その成果と課題を次年度、検証していきたい。
		<p>・友達や教師と関わり、日常生活が豊かになる授業を実践する。 (施設内教育(病院))</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教材開発に取り組みながら、授業づくりを行った。引き続き、五感に働きかける工夫や改善に努めながら、児童の実態に即した教材・教具を整えていきたい。 ・小集団ではあるが、友達同士や教師との関わりを意識したり、9年間を見据えたりしながら生活単元学習のモデル年計を作成した。次年度は授業実践および検証を行い、指導の充実を図っていきたい。
	<p>・各部の教育課程や教務関係書類の理解を深め、授業力の向上を図る。 (教務部)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍における授業、行事の在り方についての検討や45分授業に向けた取組、研修部と連携した生活単元学習のモデル年計作成などを通して、多くの職員が教育課程について理解を深めることができた。 ・新様式「個別の指導計画」を軸に単元毎での目標、活動、評価の筋道が一貫されてきた。しかし、取組初年度となる今年度は、職員が主体的に取り組むことができるよう、取り組むタイミングについての周知に力量を注いだ。そのため、取組状況や内容には個人差があった。今後は、成果や課題などを共有し、学校全体で学習評価への意識向上を図っていく必要がある。 	

		<ul style="list-style-type: none"> ・「いきジョイ(校内研究)」に全校で取り組み、生活単元学習の年間指導計画について全職員で共に考え、学び合う中で、専門性の向上を図る。 ・職員が部間のつながりを意識しながら、子ども一人一人の指導や支援について考え、実践できるようにサポートを行う。 (研修部) 	<ul style="list-style-type: none"> ・教務部と連携し、学校全体で生活単元学習の年間指導計画について共に考える研究を進めた。生活単元学習のモデル年間指導計画づくりに取り組み中で、職員自身に気づきが生れたり、学習指導要領の内容に触れながら関連教科や学習内容の系統性についての理解を深めたりすることができた。次年度は、今年度作成した生活単元学習のモデル年間指導計画を基に授業実践し、主体的・対話的で深い学びについての理解を深めると共に、職員の主体性を引き出すものにしていきたい。 ・職員が互いの授業を気軽に見合い、学び合うことができる雰囲気づくりをするために、「部を越えた自由な授業参観」ができる期間を年間2回設定した。期間中は、各部の時間割を確認できる掲示板を職員が目を通しやすい場所に設置し授業の参観を促す工夫をした。授業参観した職員は全体の約30%であった。授業参観できなかった理由としては、授業参観に行く時間がなかったという意見が最も多かった。一方で今後も継続してほしいという意見も多く挙がった。次年度も継続して行うためには、設定期間や参観方法の見直し、PRの工夫が必要である。
		<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の特性に応じた支援につながる研修会や情報交換を行い、教員の専門性の向上を図る。 ・児童生徒のよりよい支援につながる自立活動プロフィール表について考える。 (自立活動部) 	<ul style="list-style-type: none"> ・第4回選択研修会では外部専門家による「知的障害特別支援学校における自立活動について～課題の整理と焦点化～」の研修を実施した。研修会では、課題同士に関連を付けながら中心課題に迫ることや指導仮説の立て方などを行い、職員の専門性を高めることができた。また、チームで考え支援を共有することの大切さも共通理解することができた。自立活動だよりでは、時間の指導の実践例や自立活動相談(豊田子ども発達センター)の事例を掲載した。これらを通して、日々の支援の参考になる情報を提供することができた。 ・よりよい支援につながる「自立活動プロフィール表」はどのようなものかを教務部や進路指導部と協働して話し合ったり、自立活動部会で検討したりした。また、自立活動部会では「指導すべき課題」を導き出す過程を実際に行いながら記入例を作成した。課題抽出の際の視点や中心課題への迫り方などを確認することができた。また、自立活動だよりを通して「自立活動プロフィール表」の記入方法について紹介した。今後もよりよい支援につながる「自立活動プロフィール表」について、引き続き検討していきたい。
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">安全で安心できる環境づくり</p>	<p>最新の情報に基づき、感染症対策を徹底する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・病気や事故、災害時の対応について、今までの取組を整理、検討し、対応や行動の仕方について職員間で共通理解を図る。 (生活指導部) 	<ul style="list-style-type: none"> ・緊急時や災害時の対応や行動について、担当会への立ち上げや、職員へのアンケート、各校から情報収集を行い、校務部会で意見交換と検討を進めた。今年度検討できたところは、次年度の訓練や研修で実践していく。積み残した部分については、引き続き検証を行い、その結果を実践し、職員間で周知していきたい。
	<p><小学部> ・職員向けの進路に関する勉強会を実施する。 (進路指導部)</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・部会後に進路指導主事より職員向けの講話を行った。今年度は保護者向けに作成した進路についての動画を視聴したり、中学部の進路問題についての話を聞いたりした。
	<p><中学部> ・保護者に向けて進路に関する情報を提供する。 (進路指導部)</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・障害福祉サービス事業所の現状等をお伝えするとともに、中学部卒業後の進路先について改めて考えるように伝えた。卒業生の保護者を講師に招き講演をしていただいている中学部2年生の進路情報連絡会は、新型コロナウイルス感染症対策のため中止となった。講師に講演内容をまとめていただき、中学部2年生の保護者に配付することに変更した。
	<p>病気や事故、災害に対する緊急体制を全職員で見直し、徹底を図る。</p>	<p><高等部> ・産業現場等における実習の実施を増やし、進路を考える機会を増やす。 (進路指導部)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・高等部2年生の生徒全員が1月に校外で実習できるように、夏季から実習先の開拓を行ったことで、多くの企業で実習を行うことができた。高等部2年生から実習に出ることで、生徒、保護者が進路について考える機会が早くなり、進路指導にかかる時間を増やすことができた。今後、進路変更などにも丁寧に対応していきたい。

	<p>一人一人がより豊かな生活を思い描き、その実現に向けて関係機関と連携を図る。</p>	<p>・児童生徒が、健康に関する知識を身に付け、自主的に健康生活を送ることができる資質や能力の育成を図る。 (保健体育部)</p>	<p>・家庭に対して健康チェックの徹底や保健だより、食育だより等を配付して感染症対策を呼びかけた。児童生徒と職員に検温や手洗い、消毒を推進してきたかなりの効果があったように感じている。日頃の学習場面や登下校、給食場面でも三密を避けたりマスク着用を推進したりして感染対策を進めている。これからも感染状況が安定しないことが考えられるため、常に状況を把握しながら一連の対策を継続する必要がある。</p>
		<p>・児童生徒の支援において、相談資源の活用を広げ、関係機関との連携を図る。</p> <p>・小・中学校・高等学校や市町のニーズを収集し、ニーズに応じたサポートや情報発信を進め、地域との協働体制を構築する。 (教育支援部)</p>	<p>・校外の相談資源として、スクールソーシャルワーカー、語学支援員、豊田子ども発達センター等を活用し相談会や指導生徒の支援について話し合った。これらの相談資源の活用について、全校職員を対象にアンケートを行った。支援会議や相談会に参加した全ての職員が「とても役に立った」、「役に立った」と回答した。学年所属などの関係者として参加した職員も多くいたことが分かった。相談資源を活用しなかった理由は、「相談することがなかった」が最も多かった。相談資源を活用しなくても「学年の職員間で相談して解決した」ケースも多くあった。その半面、「相談してもよいのか悩んだ」との回答もあった。</p> <p>・巡回相談等の事後アンケートから、本校職員からの助言が「大変参考になった」、「具体的な助言が役に立った」、「アフターフォローがありがたかった」などの意見をいただいた。今後知りたい情報や教材としてICT機器の活用やユニバーサルデザイン授業、自立活動、進路などのニーズがあることが分かった。今後のコンサルテーションや来年度の研修の参考にしていきたい。</p>
<p>働き方の改善</p>	<p>一人一人が自らの働き方を見つめ直し、計画的に業務を進める。</p> <p>「あたりまえ」と思っている業務を目的に合った内容や進め方に見直し、実践する。</p> <p>職員一人一人の生活や働き方を認め、支え合う職場づくりを進める。</p>	<p>・部内や校内の業務改善に向けたアイデアを募集し、関係部署と実行可能か検討する。</p> <p>・各学年内で効率的な業務の進め方を工夫した事例等を、学年主任者会や部会場で紹介する。 (小学部)</p>	<p>・令和5年度に向けて「標準時間数に合わせた時間割」に向けて検討を始めた。業務の適正化を図る上でも実現させたい。</p> <p>・教材の共有化や更なる会議・打合せの精選など日々の業務が削減できるように、引き続き様々な立場から意見を幅広く求めていきたい。</p>
		<p>・職員室内の文書及び物品の整理整頓を行い、物の位置や表示を改善することにより、仕事の効率化を図る。 (総務部)</p>	<p>・本年度は、校務分掌の仕事内容変更等があり十分に整理整頓ができなかった。次年度は、より一層の職員室内の整理整頓を行い、物の位置や表示を改善し、サーバー内の整理整頓を行うことにより職員の仕事の効率化を図る。</p>
		<p>・教務関係書類に関してできる限り遺漏や遅延なく業務を進められるようにする。 (教務部)</p>	<p>・今年度から変更となった書類が複数あるため、マニュアルの資料配付や共有サーバーでのデータ閲覧、掲示板アプリケーションを使った適時での情報発信を行った。また、提出書類が多い時期は、要点をまとめた一覧表を配布したことで、遺漏や遅延なく業務を進められている。</p> <p>・内容に重なりがあり、多くの職員が多忙を感じていた個別の教育支援計画の内容や項目を精選した。</p>
		<p>・校内サーバーの整備及びデータの整理を進め、必要な情報が利用しやすい環境づくりを行う。</p> <p>・ICT機器の整備及び設定を進め、利用可能な状態を維持する。 (教育工学部)</p>	<p>・データの保存と整理について、総務部と連携し、計画することができた。各分掌にデータの整理と移動を促すことができた。次年度からの新たな運用形態に向けて、環境設定を進めることができた。</p> <p>・生徒用の一人一台タブレット端末の保管や活用に対して、相談を受けて話し合いながら、よりよいアプリケーションや活用方法について伝えることができた。</p> <p>・リモート授業のサポートを行い、リモート会議アプリを使った授業回数を増やすことができた。</p> <p>・Microsoft Teams の利用環境を整え、職員間の連絡やリモート会議をスムーズに行うことができるようにサポートすることができた。</p>

総合評価	<p>1 授業づくり</p> <p>新学習指導要領に基づいた教育課程の見直しに取り組んだ。いきジョイ(校内研究)では生活単元学習の系統性や教科等とのつながりに焦点を当て、年間指導計画の見直しを行った。次年度は実践と評価を行う。</p> <p>2 安全で安心できる環境づくり</p> <p>最新の情報を基に、感染症対策の徹底を図った。災害時への対応についても他校や最新の情報を基に見直しを進めた。</p> <p>児童生徒の豊かな生活に向け、関係機関との連携を図り多方面からの支援方法について確認し対応した。</p> <p>3 働き方の改善</p> <p>職場環境の整理整頓に努めたが、サーバー内や書類の整理に課題が残った。引き続き取り組み仕事の効率化につなげたい。</p>
------	---